

菊地寅祐は幼少期からビデオで同じ映像を繰り返し見てきた。何度も再生する。そのたびに磁性体は摩耗し、像はわずかに遠のく。触れなければ見えない。しかし触れるたびに、触れる前の状態には戻れない。

菊地は樟木を彫る。ノミが入るとき、彫られた素材は二度と戻らない。作品の多くはレリーフという形式をとる。彫刻でありながら、鑑賞者は表面からしか触れることができず、内部で起きた木と手の応答は、痕跡としてだけ残る。



《Gray》, 2026, 楠木,
1800 × 1800 × 70 mm
(70.9 × 70.9 × 2.8
inches)



《Orange-marmalade
I》, 2025, 楠木, 540 ×
270 × 30 mm (21.3 ×
10.6 × 1.2 inches)



《Orange-marmalade
II》, 2025, 楠木, 580 ×
250 × 30 mm (22.8 ×
9.8 × 1.2 inches)



《Pumpkin-soup I》,
2025, 楠木, 580 × 270 ×
60 mm (22.8 × 10.6 ×
2.4 inches)

アーティスト・ステートメント

菊地寅祐は幼少期からビデオで同じ映像を繰り返し見てきた。何度も再生する。そのたびにテープの磁性体は摩耗し、像はわずかに遠のく。触れなければ見えない。しかし触れるたびに、触れる前の状態には戻れない。映像に向き合うとき、見ている者と像のあいだの距離は消える。映像の時間がそのまま自分の時間になる。しかし近づこうとする行為が対象を変え、変わった後にしか触れることができない。

菊地は樟木を彫る。ノミが入るとき、彫られた素材は二度と戻らない。樟が何年もかけて蓄えた時間が、制作のいまに介入し、彫る手はそれに応答する。菊地の彫刻は、その手前に立つことはしない。すでに触れてしまった後の、不可逆の表面である。

作品の多くはレリーフという形式が選ばれる。彫刻でありながら、鑑賞者は表面からしかこの彫刻に触れることができない。内部で起きた木と手の応答は、痕跡としてだけ残る。

経歴

触れなければ見えない。しかし触れるたびに、触れる前の状態には戻れない。樟木によるレリーフ彫刻を制作する。再生のたびに摩耗するビデオテープの像と、ノミが入るたびに戻らない

木。両者を貫く不可逆性を、鑑賞者が触れうるただひとつの表面として提示する。2022年、東京藝術大学美術学部彫刻科卒業。2025年、同大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。1998年、山梨県北杜市生まれ。

CV

展示歴（抜粋）

- 2025 「夕暮れを待つ星」、クマ財団ギャラリー、東京
- 2024 「木と生きる 木の可能性を知る、6日間」、東京ミッドタウン、東京
「KUMA experiment 2024-25」、クマ財団ギャラリー、東京
- 2023 「未来の大芸術家たち」、平成記念美術館ギャラリー、東京
- 2022 「MASK」、powderroom,Uptown KoenjiGallery、東京
- 2021 「まだその時ではない」、創英ギャラリー、東京

受賞歴（抜粋）

- 2025 artの力賞、東京藝術大学
- 2024 クマ財団クリエイター奨学生（第8期）
- 2023 サロン・ド・プランタン賞、東京藝術大学
平成芸術賞、東京藝術大学

aaploit

〒112-0014 東京都文京区関口1-21-17 TMKビル2F

info@aaploit.com



作品をもっと見る

<https://aaploit.com/ja/artists/kikuchi-torasuke>

著作権・利用条件

© 2026 菊地 寅祐 and aaploit

本資料に含まれるすべての作品、画像、テキストは著作権で保護されており、アーティストおよびaaploitに帰属します。

ポートフォリオ・高解像度画像

出版、研究、キュレーション目的での包括的なポートフォリオおよび高解像度画像ファイルは、ご要望に応じてご提供いたします。お問い合わせは下記まで: info@aaploit.com

許可される利用:

- 批評、教育、ジャーナリズム目的での短い引用・抜粋。
- 適切なクレジット表記を伴う複製: "菊地 寅祐、courtesy of the artist and aaploit"

禁止される利用:

- 書面による許可のない商業目的での複製。
- 画像またはテキストの改変。
- アーティストの作品や意図を誤って伝える複製。

最終更新日: 2026年4月26日